

令和6年度 福井県立嶺南西特別支援学校 学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
教育課程 学習支援 研究研修	子供たちの教育的ニーズを的確に捉え、個々の学びを支援する授業実践に取り組む。	・96% (幼小学部) 100% (中・高等部) の保護者が、一人一人に合わせた授業が行われていると感じていることから、子供のニーズを適切に把握し、一人一人に応じた適切な目標の設定と支援を行うことができたと考える。(教員の取組 100%) ・研究研修の取組では幼小中学部で 100%、高等部で 94% を達成した。昨年に引き続き、福井大学 笹原准教授による助言を受けながら研究を進め、授業づくり・個に応じた指導支援において、PDCA を意識して取り組むことができた。研修の実施形態を工夫したことによって、教師が主体性をもって学び、取組や子供に対する理解が深まった。	・児童生徒同士が対話的に関わる場面設定や児童生徒が自ら課題を見つけ課題解決に向かう場面などを意識した支援を充実させていく。 ・研究助言者として、引き続き、福井大学 笹原准教授に協力依頼する。定期的なやり取りの中で協力関係を強め、研究の質の向上を図る。幼～高の繋がりある教育活動および支援を実現していくために、報告会などを通して各グループの研究活動の共有に努める。また、学部枠を解いた相互参観や授業研究会への参加を推進し、各年齢・発達段階に応じた取組の実際に触れられるようにする。
教育課程 学習支援 研究研修 幼小学部	達成感に繋がるような関わり方や支援を通して、幼児児童自ら気付いて行動しようとする力を引き出す授業の工夫を行う。	・保護者 (96%)、教職員 (100%) とともに目標指数をクリアすることができた。幼児児童の実態を踏まえた課題を教師全員が共有し、一人一人の達成感に繋がる支援をすることができた。また、自ら気付いて行動しようとする子供の姿も、少しずつ見られるようになった。	・本年度の授業研究で得られた成果や改善点等をできるだけ具体的に取り上げて検証し、一人一人の達成感が更に高まるとともに、自ら気付いて行動しようとする場面が増えるような授業作りを目指し、研究を積み重ねていきたい。
教育課程 学習支援 研究研修 中学部	「やってみたい、知りたい、なりたい」という思いと、身に付けた力や経験を基に、自ら行動する力を引き出す授業の工夫を行う。	・保護者、教職員とも目標指数を達成できた (100%)。学部研究において、事例研究を通じた授業づくりの取組を行った。生徒の学びを、全教師の目で丁寧に観察し、観察で捉えた実際の姿を共有しながら、研究会やミーティングでそれぞれに合った展開、手立て、支援を検討できた。また、学部会や研究会で共有した生徒の実態や支援を、様々な学習場面、生活場面において、それぞれ担当する教師が主体的に活用しようとする姿勢が見られるようになってきた。	・研究の対象授業を中心に、生徒が経験したこと・できるようになったことなどを土台として、次の学びのサイクルを構想・構築することができた。今後も、生徒一人一人の意識・意欲や実態の育ちに依拠して、柔軟に展開していきたい。中学部では、学習場面によって別の教師が生徒を担当することが多い。そのため、教師間で生徒の様子を詳細に共有していくことが必要である。今後も学部会や研究の機会を大切に取組んでいきたい。
教育課程 学習支援 研究研修 高等部	学習の成果や個人の考えを発表する場、卒業後の生活を見据えて自分に必要なことを考える場を設定し、生徒が目標と使命感をもって活動できる授業の工夫を行う。	・保護者、教職員とも目標指数をクリアできた (100%)。授業や各活動を通して学んだことや感想、今後の目標などを発表する場をもつことができた。また、生徒が話し合う中で、自分の役割を理解し、主体的に活動できるような指導支援をすることがおおむねできたと考える。	・生徒同士の関わりや話し合い活動を大切に取組を行う。また、習得したことや気付きなど、発表する場を積極的に設けることで深い学びにつなげていきたい。 ・全員で情報共有、共通理解し、保護者や地域 (各機関) とともに関わりながら、生徒の卒業後の生活を想定した支援ができるよう努める。
生徒支援	幼児児童生徒が最大限の力を発揮できるような学校行事や児童生徒会・委員会活動、部活動の企画・運営を目指す。	・各行事を昨年度の反省を踏まえつつ安全に運営することができた。体育大会および学校祭は教職員 100%、保護者 98% であった。体育大会の最後に保護者や卒業生も含めた全員参加型の種目を増やしたことや学校祭での鑑賞環境 (パイプ椅子席増設) を改善したことなどが評価に繋がったのではないかと考える。「児童生徒会だより」は初めての試みであったが活動内容を広く伝えることができ、保護者 98% の評価を得ることができた。	・体育大会は引き続き幼児児童生徒の健康面や安全面を考慮しつつ、満足度の高い行事開催を目指していく。また、学校祭は舞台発表の内容の方向性 (演劇 or 学習発表) を引き続き、検討していきたい。児童生徒会だよりは今年、伝えきれていない活動などもより多く記載していきたい。
	日々のクラス活動などを通じ、自分自身を大切にすること意識や友達を思いやる意識を高めることを目指す。	・満足度は教職員 100% 保護者 98% と目標指数をクリアできた。毎月、各学部内において、幼児児童生徒の人間関係のトラブルがないか情報共有を行い、早期発見や早期対応に努めた。	・友達関係のトラブル防止に向け、保護者とは連絡帳などを通じて情報共有を行い、教員間では学部会や運営委員会を通じ情報共有し、縦横の連携の中で問題の早期の発見、対応を心がける。
進路支援	進路面談等で本人や保護者のニーズを聞き取り、それぞれの目標に応じた実習が行えるよう支援する。	・保護者の満足度指数 100%、教職員の取組指数 100%。ハローワーク主催の企業説明会に保護者と一緒に参加して、今後の実習先について検討できた。就労継続 B 型の希望者が多く、実習先や就労アセスが重なることが懸念される。	・希望する実習先が重なった場合は実習期間外に設定するなど柔軟に対応する。高等部 1 年生の保護者対象に就労選択支援事業についての説明会を開き希望者を早めに把握する。一般就労についてはハローワークを始め関係機関と連携して情報収集につとめ、進路開拓を今後も進めていく。
	福祉制度やサービス等の進路情報を講演会等で、分かりやすく提供するよう努める。	・保護者の満足度指数 98%、教職員の取組指数 100%。福祉制度学習会では、保護者対象に各サービスの代表者より説明があり、分かりやすく大変好評だった。近年直接話を聞く機会を設けられてなかったため、講演会形式の必要性も再認識した。	・今回はサービス全体の説明について若狭地域の事業所を紹介する形で設定した。「グループホームの話聞いて今後考えていこうと思った」、「就労について更に聞きたい」等の意見が出たので、今後要望を整理して情報提供についての参考にしたい。
保健管理	保健安全管理に対する意識の向上と、日常生活での習慣化へ向けた取組を推進する。	・保護者は 98%、教員は 100% と、目標指数をクリアできた。朝の健康観察や手洗い等の健康管理を継続しつつ、交通安全・災害安全等の学校安全においても、児童生徒にとって最適な取組について検討していく。	・安心安全な学校生活を目指し、毎日の健康チェックや衛生的な生活習慣作りの指導、交通安全教室や避難訓練等を通じた安全教育のあり方について検討し、実践していく。また、取組の様子をホームページ等で情報発信をしていく。
	地場産物を活用した学校給食をはじめ、食に関する活動の充実を目指して、食育を推進する。	・保護者は 98%、教員は 100% と、目標指数をクリアできた。地場産物の活用とともに、行事食等の特色のある学校給食を提供し、食育を実践することができた。さらに、工夫していくことで食育を推進していく。	・児童生徒へより安心安全な給食の提供を引き続き心がけ、給食の時間の指導 (行事食や食材の紹介等) も継続していく。保護者の方々にもより満足していただけるよう、給食だよりで地場産物や食に関する情報を発信していく。
PTA 連携	地域社会と連携しながら、参加しやすい日程や内容を検討し、会員相互の交流が深められるような PTA 行事の企画・運営に取り組む。	・保護者 96% で目標指数 90% を超えることができた。夏休み生活支援事業 (ポッチャ) は、役員希望で家族対抗戦という試みが好評であった。親子行事はマジックショーとミュージックケアを行い、幼小学部から高等部まで幅広く参加者を得ることができた。防災教室は、保護者のみの参加であったが、子供も参加できたのではないかと意見があった。内容にもよるか休日の PTA 行事で保護者だけを募ることについて検討が必要である。座談会では、日頃の悩みを話し合い情報交換の中で、会員同士の交流を図ることができた。講演会と防災教室、ミュージックケアの講師、地域の方にお願した。	・防災講習会は講師と相談の上、子供不参加にした。参加者が少なかったのは、保護者が行きたくても子供を家庭に置いて参加することが難しい状況になったのではないかと考えられる。PTA 行事を計画する際に、今一度活動内容はもちろん参加しやすいかどうかとも吟味しながら計画していきたい。
	会員のニーズを理解し、行事の報告や地域の情報等を分かりやすく伝えられる PTA 広報誌の制作に取り組む。	・保護者教職員とも 100% で目標指数 90% を超えることができた。1 学期のクラスと教職員紹介の号外と 2 学期、3 学期に各 1 回ずつ計 3 回発行している。学校行事や学部別の活動、部活動、現場実習先、PTA 行事等について広く情報提供ができ高評価を得られた。	・今後も必要な情報を分かりやすく伝えられるよう広報委員会において、紙面の内容や構成を考えながら充実した広報誌を作っていく。